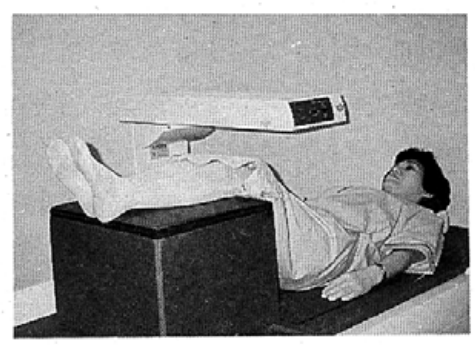
五省

一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ずるなかりしか
一、気力に欠くるなかりしか
一、努力に憾みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

五省会ニュース

発行所
特定医療法人五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能 正一郎

定期的に骨量を測りましょう



骨粗しょう症の適切な治療と予防

骨密度測定室を開設

開院三十三周年（三月二十一日）を迎えた西能病院は〝病院の活性化〟を年間テーマにして、チーム医療の確立と接遇の向上を図っている。一月に高精度の骨密度測定装置を導入し、予防医学の充実に努めている。

一月十七日、一階内科外来前に骨密度測定室を開設した。導入したのは高精度のX線骨密度装置・QPR−一〇〇〇PIU〜（写真）で、骨粗しょう症の適切な治療と共に予防の指導につとめる。

骨粗しょう症は、高齢化社会では避けて通れない病気であり、特に女性は、ホルモンのバランスから、四十代より注意が必要である。

又、若い方でも、スポーツによる骨密度の変化を調べるために有用である。

骨密度測定で、早期の診断がつくと、早速カルシューム、ビタミンDやホルモン剤の投与によって予防治療を行い、その治療効果は四カ月毎の再検査で明らかになる。

骨がスカスカになる

骨粗しょう症とは、骨の中のカルシューム、タンパク質、リンの量が減少するために、骨の密度が少なくなり、骨が非常にもろく、スカスカになり、折れやすくなったり、つぶれやすくなる状態をいう。

西能院長が講演

西能院長が一月二十四日、富山市呉羽会館で「骨粗しょう症について」講演した。主催はいずれも富山市医師会。

予防医学の充実を

西能院長のはなし

病気の診断が下りますと、その治療には時間的、経済的そして精神的な負担が強いられます。このため、最近は予防医学の分野が注目され、その有効性が認識されてきました。

当院でも、人間ドックをはじめ糖尿病スクールや栄養指導、またスポーツ整形外科と、それに関連する体力測定など予防医学の充実を図ってきました。

今年になって骨密度測定装置を設置し、骨粗しょう症の早期診断と予防を行っております。骨折を防ぐために骨密度測定の御利用とおすすめ致します。

糖尿病スクール

四月〜七月の入校日

△四月＝二日、十六日△五月＝七日、二十一日△六月＝四日、十八日△七月＝二日、十六日

期間は一週間、受講料は一万五千円、申し込み、お問い合せの内科外来まで。

開院三十三周年に想う

西能 正一郎

急性病院として心を新たに

戦後最大の惨事となった阪神大震災で、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。被災地の皆様に心からお見舞い申し上げます。復興に力をあわせて頑張って下さい。

× × ×

今年もまた開院記念日が訪れました。

私が開業したのは、昭和三十七年、今から三十三年も前のことであります。わずか十九床で発足した有床診療所が、今や整形外科、内科併設の百八十五床の専門病院に化けてしまったのですから、大変な変化であります。その間、ここまでお育て頂きました皆様方に更めてあつく御礼申し上げます。

国民皆保険制度が定着し、老人医療費の無料化が普及するにつれて、国民総医療費が毎年一兆円ずつ伸びてきました。やがて二十兆円にとどこうかという昭和五十六年から、政府は医療費の圧縮に本腰を入れ始めました。

まず医療保険点数の引き上げを抑え、薬品代の圧縮が始まったのでありますが、そのうちに、病院に入院しておられる高齢者の方々に目を付け、入院中の高齢者は病人でないとは言わないが、高齢者に問違いないという変な理屈をつけました。ナーシングホームなどの、高齢者の施設も作らずに病院に押しつけて来たことを棚に上げて、高齢者を一般急性病院から追い出す作戦に出たのであります。

高齢者を収容する施設を建設する予算も出せない政府は、私的病院を老人病院、老人保健施設、あるいは長期療養病床群等々と手を変え品を変え高齢者の方々を安上りに収容する施設に転向するような政策誘導がなされております。日本の病院の全ベッド数が、人口あたり諸外国に較べて多過ぎるということを前提に、私的病院を潰すよりは、その方向に利用してゆこうということであります。

この様な政策に従って病院運営の舵を取ってゆくならば、それなりに道は残されているのでありますが、流れに竿差して、急性病院として生き残ってゆこうとするのは至難の昨今であります。

けれども私は若い方は勿論の事、高齢であればあるだけ急性の病気に罹患される機会も多く、治るまでに少々時間もかかるであろうが、これにきちんと対応するのが医療をあずかる者の使命であると考えております。病院の業績は思うように伸びなくても、敢えて急性の病院としての機能を死守してゆきたいと思っております。

新年に西能病院の方針として全職員心を新たにしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

あすなろ

腕をえぐられて出血がとまらない。近くの開業医院は倒壊、電話は不通。妻に支えられて二キロ歩いてやっと病院をみつけた—阪神大震災での、ある老人の告白である▼短歌に「子を抱え地鳴りの中を逃れきて血だらけの腕血だらけの足（神戸・杉岡壱風）」とあった。この震災で緊急医療が完全に後手に回ったことは確かである。ある病院長はいう。「断水、ガスストップ、手術が出来ない。医薬品は足りない。受け入れ病院との連絡はつかない。内部連絡さえ壊れた階段や廊下を五階まで走った」▼大阪から応援にきた救急隊員はいう。「救急車は道路マヒで全く動かず、やっと負傷者を収容したが救急無線は自治体ごとに周波数が違うから通ぜず、やみくもに病院を探して走り回った」▼米国には、自然災害はもちろん、飛行機事故、暴動、核攻撃…あらゆる災害を想定して作られた「国家災害医療サービスシステム」がある。医師、看護婦、技術者など三十五人が一チームで、善通は各自の病院で働いているが、緊急時、国の職員に変身し現場へ直行する。チームは警察、消防と共通無線で結ばれている。▼医療が今度の災害で教えられた事は多い。第一は通信の確保、第二は輸送の確保、第三は医薬品と病院の確保である。ともかく広域的緊急医療システムを早急に作らねばならない。災害は待ってはくれない。

ねんりん

西能病院三十三年のあゆみ

昭和37年3月　富山市星井町で、病床十九床、職員八人の西能整形外科医院を開設
38年12月　富山市五福で、四十七床の西能整形外科病院を開設
39年5月　救急病院に認定
40年4月　第一期増築工事（鉄筋三階建、塔屋一階）が完成、二十七室、七十七床で開設
42年3月　通院用パスを購入、病院—富山駅前—西町巡回
43年8月　第二期増築工事（鉄筋四階建、塔屋一階）が完成、三十四室、百十六床に。同時にリハビリテーション部が完成
44年7月　富山大橋橋脚沈下、国道8号線不通で、地鉄ビルに臨時診療所を開設
48年12月　牛岳スキー場に救急隊派遣
52年3月　職員寮が完成、かたかご保育園が同時落成
53年4月　医療相談室を開設
54年5月　内科外来の診療を開始
54年10月　医療法人・財団五省会が認可
56年3月　特定医療法人に承認
58年3月　第三期増改築工事（増築は鉄筋五階、一部六階建）が竣工、百八十五床に
58年4月　内科病棟を新設
60年9月　健康教室（毎月一回）を開催
60年11月　泌尿器科と神経内科の外来を新設
61年12月　基準看護特2類の実施承認
62年4月　地域医療チームを編成、訪問看護などの活動を開始
62年4月　スポーツ整形外科を開設
63年4月　日曜、祝日を返上した外来休日診療（内科、整形外科、リハビリ）がスタート
63年4月　入浴車の無料サービスを開始
平成2年12月　神通川以西の新コース二つで通院パスを増車
3年5月　医薬分業がスタート
4年7月　心療内科を開設
4年10月　人間ドックを開設
5年4月　内科に糖尿病と循環器の二つの専門外来を開設、富山医薬大が協力
6年4月　糖尿病スクールを開設
6年9月　タワークリニック（富山市牛島町、インテックビル二階）を開業
6年10月　体力測定室（三階）を開設
7年1月　骨密度測定装置（一階）を導入

地域とともに ⑥

自覚そして使命感を

心構えは

「おビくなりになった方々のご冥福をお祈りする。私たちに、体を張って教えて下さった教訓だ。ボランティア精神を忘れず、自分が出来る範囲で困っている人を助けてあげたい。そのためにも、常日ごろから、どんな出来事に対し、学ぶ姿勢を持ちつづけたい」

知識と技術を

「様々な災害時に対応できるように、日ごろからの訓練や、熟練された知識と技術をしっかり身につけたいと考えている」

「今から、しっかり勉強して、いざという時に役立つ看護職になりたい」

「看護婦であるというプライドを持って使命感を達成したい」

「まわりの状況に応じて体力の可能な限り微力でも被災者の援助に力を尽し、医療機関に勤務している者として、恥じない行動をとりたい」

心の準備を

「緊急な時にテキパキと仕事をこなせ、どんな状況にも対応できるように、心の準備をしておく」

「さまざまなボランティア活動を通して協力し合い、助け合っていきたい」

「大きな災害にあったことがない。本当に災害にあった場合、冷静になって行動できるかどうか自信がない。」

患者さんの支えに

「こんどの大震災で自分も被災者でありながら、勤務し、がんばっている看護婦の姿が多く見られた。患者さんの支えとなれるようまた組織の一員として努力していかなければならない」「日ごろより医療人として非常時に何を第一にすべきかを啓蒙する」

なお、「勤務時の場合」「在宅時の場合」の行動、備えなどのレポート分は次号（五月号）で掲載します。

災害時 そのとき私は（上）

看護部職員96人がレポートを提出

病院の防災対策を再検討

阪神大震災の、この深い傷跡を教訓に

あの悪夢のような衝撃に襲われた一月十七日午前五時四十六分…。このような大災害に遭遇した場合の心構えは、勤務中又は在宅中の行動と備えは、そして対策はできているだろうか―。看護部の部員九十六人（看護学生を含む）が「災害時 その時私は」のレポートを坂倉看護部長のもとに提出、災害に立ち向こう看護職としての自覚と、使命感を新たにした。つぎは、そのまとめである。

防災マニュアルの作成を

夜勤時を考えた訓練が大切

防災対策は

「はたしてどれだけの看護職員が、本番の場合、対応できるかどうか不安だ。防災対策、緊張対応のプロジェクトチームを編成して再構築すべきだ」

「予期しない突然の災害に冷静で敏速に判断、困難に立ち向かっていく訓練が必要である。職員全体で災害対策を再検討するためのあしがかりとしてレポートは貴重だ」

「防災マニュアルを作成し、病院全体の、そして各職場ごとの防災訓練を重ねていく。敏捷な行動がとれるよう、日ごろ職場でも話し合いの機会をつくりたい」

「各病棟毎に災害時マニュアルを作成し、日勤時と夜勤時の役割分担をそれぞれ明確にし、職員は、それを熟知しておく必要がある」

「夜勤時は、日勤時にくらべて看護職員の人数が少ないので、現状把握、担送護送患者さんの誘導が難しい。そこで正しい判断と行動が求められる夜勤体制を考えた訓練をしてほしい」

「看護部だけでなく、各部署で備蓄用品、持ち出し物品の再確認。例えば、食料、薬品、衛生材料、カルテなど」

「非常袋を準備してカルテや書類を入れ、窓から落とせるようにする。緊急時に必要なものを決められる場所に置き、すぐ持ち出せるようにする。定期的に訓練したり、勉強会を開くことも必要だ」

「非常時想定訓練参加カードを作成し、各職員が〝やらねば〟の姿勢を養う」

「救命器具の設置場所や使い方の点検をしておくことも大事」

「水の備蓄。五階～一階に、一、二ケース常備して水を確保、又、エネルギー棟に五ケース位確保する」

「院内の救護を適切に行い、あわせて地域への救護もできる組織を持つべきだ」

「情報伝達方法を再チェックする。また、各病棟は、担送、護送の患者さんを常時把握し、即応できるようにしておく」

厳しくも懐かしい兵学校の日々

海軍兵学校の教えに学ぶ②

海軍兵学校第77期会会報「江田島」編集担当
平井　健男氏
（千葉県在住）

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

敗戦の色が濃い昭和二十年に兵学校へ入学。海軍に憧れて入ったものの、防空壕掘りと陸戦練習に追われる。しかし、兵学校の伝統的な気風が多感な少年時代の二人に与えた影響は素晴らしいものだった。

防空壕掘りと陸戦訓練

西能　兵学校に入ってしばらくすると防空壕掘りが始まりましたね。平井さんは、どう思われましたか。

平井　入校式の数日前に戦艦大和が沈められたわけですが、当時はまだ知らされていない。でも、上級生の話からも、日本にはこれ以上戦う力が残っていないということは感じていました。

防空壕を掘りながらこの先どうなっていくのか不安でしたが、自分達にやれることは他に何もない。自分達の入る防空壕ぐらいは自分達で掘らないと、という気持ちでした。

西能　兵学校生活で防空壕掘りはかなりの時間がさかれていましたが、私も仕方がないと思っていました。

あの頃はもう、海の訓練はカッターと水泳くらいで、ほとんど陸戦の訓練でしたね。

平井　そうそう、木で作った実物大のアメリカの戦車があって、キャタピラの下へ棒型の爆弾を差し入れ、そのまま伏せているという訓練もありました。

西能　フトン爆弾とかいって、背中にリュックのように担ぎ、戦車の下に飛び込むとか。

平井　ミカン箱の半分くらいの爆弾を戦車の腹の下へ放り込む練習もしました。

西能　訓練は厳しいのが当り前と思っていましたが、私が一番つらいと思ったのは練兵場の端から端までの匍匐（ほふく）前進です。

黒いカッパを着て完全武装をし、腹這いになり、顔も地面につけて、足の親指の先だけで体を押し出して前進する。顔はすりきれるし、足のかかとも立てるとだめ。少しでも体が高くなると、下士官が見ていて「戦死！」と言う。（笑）二メートルほど後ろへ下げられて、また這っていかなきゃならん。私は途中で気絶しそうになりました。四か月半の訓練のなかで一番記憶に残っています。

ところで、私は大原分校ですが、平井さんはどこですか。

型にはめこまない兵学校の校風

平井　岩国分校です。人数が増えて、江田島の本校だけでは収容しきれなくなり、同じ江田島の中に大原分校、それと海を隔てた岩国の航空基地の中に分校ができて、私はそこにおりました。

ただし、二カ月くらいで基地の隣の燃料廠が爆撃を受けたので、二十キロほど離れた屋代島へ移りました。

西能　岩国の方が大原よりは、昔の兵学校教育の気風が残されていたんじゃないかと思うのですが…。

平井　そうかもしれませんね。上級生で、現在は大阪市立大学の心理学の主任教授ですが、非常に民主的な立派な方で学生達から慕われていますが、当時も今も考え方、生き方が同じなんです。

軍隊の中で、そういう考え方の上級生がちゃんとやっておられるというのは驚きでした。

西能　そういう考え方やわり方も許容されていたというのが海軍の良いところではないかと思います。ひとつの鋳型にはめこむのではなくてね。

平井　そのとおりです。当時の中学校の軍事教練は、型にはまった兵隊をつくるのが目的でしたが、兵学校の場合は、リーダーをつくるための教育でした。

軍隊でもこんな自由な雰囲気があるのかと思った一つの例に英語があります。当時は英語を使っちゃいかんということだったのに、兵学校では英語の授業

西能病院なから い商事 いち早く緊急医薬品を

被災地へ 今村医師、三原主任が救急車で

風邪の内服薬など医薬品が欠乏しているという被災地からの要請に応えて西能病院、なからい商事が緊急医療品を送った。この医薬品十五梱包と飲料水を積んだ救急車が阪神大震災発生から五日目の一月二十二日午前八時半ごろ病院前を出発した。西能院長、職員をはじめ患者さんたちが見送った。

三原総務課主任が運転、神戸市衛生局からの要請を取り次いだ今村医師が同行した。二十一日夜、富山署から受けた薬品輸送の緊急自動車の丸緊標式をつけてひた走り。

西能院長らの見送りをうけて病院前を出発
―中央後ろ姿が今村医師―

北陸自動車道から敦賀へ。ここから舞鶴までは渋滞が激しく、サイレンを鳴らして通り抜けた。救急用の車両しか通れない六甲トンネルを通りぬけ、三宮に入り、神戸市のサンポーホール内にある同市衛生局健康増進課に到着、医薬品を渡したのは同日午後一時半ごろだった。往路の所要時間はわずか五時間。

同日午後三時ごろに現地を出発、病院に到着したのは二十三日午前二時ごろだった。復路は往路の倍以上の十一時間かかった。

医薬品の内訳はつぎのとおり。

注射薬六品、内服薬九品、外用薬五品、その他、注射器や注射針など。

理事長が兵庫医大を見舞う

田村、沢田両医師宅も被災

自宅が被災した人間ドックの田村、沢田両医師（いずれも兵庫医大第四内科から派遣）に一月二十六日職員一同が見舞金を贈った。

また、同二十八日、西能理事長が被災した兵庫医大の第四内科を訪れ、医療法人五省会の見舞金を贈った。

永年勤続者十一人を表彰

開院三十三周年記念式で

西能病院は開院三十三周年記念式を三月二十一日、五階ホールで挙行、次の永年勤続者十一人を表彰した。

▽十五年（二人）栗原純子、村井悟

▽十年（一人）戸田よし子

▽五年（八人）塚田克雄、講神直美、松井晶代、杉本春美、矢後寛子、石倉国子、早瀬とし子、森川美知子

互助会から義援金

西能病院の職員で構成する互助会が一月三十一日、阪神大震災の義援金十四万七千四百六十一円を日赤県支部を通じて贈った。

戦後五十年 しらゆり会のこと ②

黒川幸男

「しらゆり会」というと、大部分の人はどこかの女学校の同窓会の名称と思います。しらゆりとは可憐、清楚純情の代名詞です。

しかし私がここでいう「しらゆり会」は医学教育振興のために自分自身の死後の遺体を医学生の解剖実習に提供することを約束した人達の集まりの会の名称です。

私の前職は警察官で主として鑑識、捜査の分野を歩いたので、遺体との長い付き合いがありました。

司法解剖はやく百二十件、死体検視は優に千件を越えています。

そして取り扱った遺体から事件を解明する貴重な捜査資料の提供を受けて職責を果たしました。私は献体を目的とした「しらゆり会」の存在を知ってからは、お礼という意味を込めて躊躇することなく直ちに入会し献体登録をしました。

たまたま、この世に生を受け、勉学と仕事に励み、自己満足で、いささか社会的貢献をしたつもりでいても、逆に社会に支えられている場合が案外多いのです。

社会に対するお礼

献体は医学教育の真髄

献体は最後に残された社会に対する無償のお礼奉公です。遺体から夫々の職責を遂行するために、貴重な資料を受けている医療関係者、薬事関係者、警察官は卒先して入会し、社会に対してお礼の意思表示をするべきだと思います。

なお、一言付け加えますが、理事長の西能正一郎先生は（T二八六〇）として入会して献体登録をしておられます。

テレビの日曜美術館で相次いで放映された絵画の中に二つの解剖の絵がありました。一つは十七世紀のオランダの有名な画家レンブラントの解剖の図です。遺体を囲んだ医学生に対し、教授がはさみを持って左腕の筋肉を剖見し、説明をしている情景をリアルに描いています。

もう一つは、現代の日本画家である前田青邨の解剖学です。この絵は幕政時代の人体解剖の図で、江戸の刑場、小塚原で持に許されて女性の遺体を腑分（解剖）している情景です。

この二つの絵画に共通している点は、遺体を取り巻く若き医学生の真剣な眼差しです。この真摯な眼差しは現代の医学生に引き次がれていると思います。

そして、医学生に囲まれて静かに横たわる遺体こそは医学教育の真髄であり、かつ主役であると思うこのごろです。

しらゆり会とは

「しらゆり会」は昭和四十四年、金沢大学医学部内で発足しました。北陸三県のいずれかの大学に登録して、死後遺体を医学生の解剖学実習に役立てもらおうとする人々の作った会。

富山医薬大の登録は三月十日現在、やく千人であります。

富山県では、しらゆり会富山医科薬科大学支部と富山善意銀行が資料提供や入会申し込みを取り扱っています。

殴られて深まる先輩・後輩の仲

西能　私は、兵学校で非常に印象深かったのは躾です。たとえば靴下とふんどしはちゃんと洗濯したものを着ていないと、あごがはずれるほど殴られた。

ただし、棒とかスリッパとか物を使って殴るのではなく、兵学校では素手で殴る。殴る本人も痛いわけです。

平井　そうです。

西能　私は入校してから殴られたのを手帳につけていたら、それが見つかって勘定しきれんほど殴られて（笑）回数がわからなくなってしまいました。

殴られるのも殴られ方を覚えてしまえば、どうってことはない。日本語をいっさい使わない。それに、何かにつけて「スマートにやれ」と言われましたね。さりしていて、これですんだということになります。

平井　同感です。先ほど言われた〝殴る方の痛み〟ですが、一人の一号生徒が十五人の下級生全員に鉄拳制裁をやって指の骨を折ったという話も聞いています。

西能　一号生徒のことを今でも思い出しますが、殴ってくれた人ほど懐かしい。不思議なもんです。

平井　殴った方も殴られた方も、今は非常に仲良くやっています。

西能　戦後、よく殴ってくれた一号生徒に何回か米を送りました。

「殴る方もラクじゃなかったと思います」と西能理事長（右）
「素手で殴るというのも兵学校の伝統でした」と平井氏（左）

平井　入校してすぐの慣れない間は「足を開け、歯をくいしばれ」と言ってから鉄拳をとばしたわけですから。

西能　そうですね。殴られて一番困ったのは、口の中が切れているのにお汁を吸わなきゃならんことでした。

平井　あれは痛かった（笑）。口の中が切れていて、みそ汁が頬にしみました。

西能　残すと、また殴られるもんですから（笑）。殴られるのは気にならないが、先ほど話した御飯前進だけは参りました。

平井　たしかに陸上戦闘は俺達の本職じゃない、という気がどうしてもあるもんですから（笑）。帆走とか船を動かすということなら本当に一生懸命になるんでしょうけど。

西能　そうですね。カッターなどはそんなにつらいと思わなかったですけど。

平井　いやあ、カッターも大変でした。尻の皮がむけて血が出るというのは本当でして。皆でふんどしを下げお互いに赤チンを塗りあうということがありましたよ（笑）。

岩国分校で原子爆弾を目撃

西能　そのほかに、兵学校で印象深いことは何ですか。

平井　原子爆弾を目撃したことです。屋代島の学校で授業中でしたが、八時十五分にいきなり強い閃光がありました。窓の外の海の向こうが広島でした。

教官が授業を中断されたので、私達も竜巻のように上へ巻きあがり、傘のように広がって、黒い雨が降るように落ちていくのを初めから最後まで目撃しました。その二分後に、雷が数個落ちたような音がして、窓ガラスが破れんばかりに震えました。

西能　私はその時間に練兵場にいました。立っていると爆風がきてヨロヨロっとした記憶がありますよ。

平井　江田島からは山の陰でキノコ雲の全部は見えなかったでしょうね。原爆の目撃が、強烈な印象でした。

（つづく）

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

より活性化を

第六回院内研究発表会

第六回院内研究発表会（写真）は一月二十九日、五階ホールで、百三十人が参加して開催、十一演題が発表された。

西能院長が「医療界は今年も厳しい状況のもとにスタートしたが、全職員がそれぞれ個々の問題として、この苦境の打開に立ち向かう意識が必要である。

今年は〝病院の活性化〟をテーマに、当院がこれから急性病院として医療を継続する方針を立てました。そのためにも、この研究発表会は重要な意味があり、演者並びに共同研究者に感謝を致します」と開会のことばをのべた。

このあと、それぞれの部署のチーム代表が日ごろの研究の成果をOHPを使いながらの発表、活発な質疑応答がみられた。

活発な質疑応答も チーム代表が11演題

最後に、早稲田大学教授、文学博士、宮口伺迪氏（婦負郡細入村出身、富山市在往）の「社会の変革期における地方の方向」の記念講演を聞いた。

十一演題と発表者と所属はつぎのとおり。

△「喜ばれる患者給食を目指して」栄養部、新庄則子△「食事介助の一考察」看護部看護助手、竹田敏子△「手洗い法の評価」看護部手術室チーム、講神直美△「慢性関節リウマチ患者の心理的特徴の分析―性格テストを施行して―」看護部三階チーム、原田清美△「看護経過表の見直しに対する一考察」看護部二階東チーム、松井晶代△「上部消化管内視鏡検査における用具の一工夫―義歯装着患者に対するマウスピースの改善―」看護部内科外来、早瀬とし子

△「多発性骨髄腫の症例報告」検査室、山下久代△「膝前十字靭帯再建術後の追跡調査」リハビリテーション、千々石昌代△「ギプス除去時の看護を通して外来看護を見直す」看護部整形外科、中島ひとみ△「経管栄養患者における低ナトリウム血症に着眼して」看護部二階西チーム、杉本春美△「胃切除術後の糖尿病患者の看護を通して」看護部四階チーム、横井幸乃

病院だより

一月

理事長、院長が年頭所感

四日＝五階ホールの仕事始め朝礼で西能理事長（写真）、互礼会で西能院長が、それぞれ「急性病院で頑張ってほしい」と年頭所感。

十七日＝成人式を迎えた次の職員七人が五階小会議室で、西能院長から記念品をうけた。的場里美、石田誠、森本香織、水野しのぶ、多田友美、大村育子、専徒裕子

二十九日＝坂倉看護部長が北日本テレビのもっとTOYAMA「富山大空襲50年」に出演して避難誘導の体験談を。空襲当夜は富山赤十字病院の当直（看護生徒）だった。

二月

職員が緊急献血

七日＝職員や来院者ら三十一人が病院前玄関前の愛の献血車（県赤十字血液センター）で献血した。この日、緊急要請でAB型の職員五人が同センターに出向いて献血した。

職員二人が先進的病院を視察

十五日～十六日＝富山県主催の「看護職員サポート事業」に参加した三原看護婦長が東京都の、五十嵐総務課主任が愛知県の、それぞれ二施設（働きやすい職場や離職防止対策に積極的な先進的病院）を視察した。

二十三日＝西能理事長が富山市民健康センターで「腰痛について」、（富山市医師会主催）を講演。

二十六日＝西能院長が富山市体育文化センターで「人間の発達と少年期の特性について」講演。主催は富山市スポーツ少年団。

三月

「富山大空襲」の体験談と坂倉看護部長が講演

七日＝坂倉看護部長が電気ビルで「富山大空襲の体験」を講演、主催は富山ロータリークラブ。

新人の抱負

臨床看護に反映を

整形外科の装具を始め、リハビリ訓練等を学び、臨床看護に反映出来る様努め、充実した毎日にしたいです。（看護部　藤野由紀子）

雰囲気に慣れたい

右も左もわからない状態ですが、少しずつ業務内容を覚え、雰囲気に慣れていくよう努力していきたいです。（看護部　野原真由美）

よりよい看護を

アルバイトですが、よりよい看護ができるよう、スタッフのみなさんと協力し、頑張りたいと思っています。（看護部　畠山幸江）

思いやりの心で

仕事には向上心をもって取組み、患者さんには思いやりの心をもって接していきたいと思います。（レントゲン室　中橋ふみ子）

触れ合いを大切に

いろんなところでの出合い、そして触れ合いを大切に、感謝して、素直な気持ちで働きたいと思っています。（薬剤部　渋谷幸子）

がんばっていきたい

勤め出して二カ月、まだまだ教えていただくことだらけですが、がんばっていきたいと思っています。（総務課　奈良原　真奈美）

診療体制のご案内

休日診療（日曜日・祝日）

午前8時30分～午後5時

- 整形外科
- 内科
- リハビリテーション科

平日診療（月曜日～土曜日）

整形外科
午前 8：30～12：00
午後 4：00～7：00

スポーツ整形外科
水・土曜日
午後 4：00～7：00

人間ドック
日帰りコース
1泊2日コース
2泊3日コース
3泊4日コース
（申込先）健康事業部 8：30～17：30

体力測定室
火・金曜日
午後 1：30～7：00
（申込先）健康事業部

内科
午前 8：30～12：00
午後 3：00～5：00
（火・金曜日は7：00）

糖尿病外来
火・金曜日
午前 9：00～12：00

泌尿器科外来
土曜日
午後 1：30～5：00

在宅看護・診療
木・金曜日
午後 1：30～4：00

リハビリテーション科
午前 8：30～12：00
午後 1：30～7：00

循環器外来
金曜日
午後 1：30～3：30

神経内科外来
木曜日
午後 2：00～5：00

栄養指導
月曜日～土曜日
午前 10：00～11：00
糖尿病ウエイト・コントロール

通院バスのご案内

月曜～土曜　午前運行
（日曜、祝日は休み）
○印は常時停留所、その他、臨時停車します。

①富山駅・西町コース：丸の内→西能病院→富山大橋→丸の内／所縁町○○丸の内／西町←桜橋通り←富山駅←新富町

②婦中・長沢・金屋方面：金屋→西能病院→神明→羽根→舟橋農協→連尾駅→古里郵便局→平岡→友坂口

③呉羽・中老田・北代・田刈屋方面：柴中→西能病院→吉作→花ノ木→中老田→女子短大→呉羽駅→北代→石坂